令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：　11月15日（月）
会　場：　田幸コミュニティセンター

1．地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
内水被害への対応	・塩町地区は，JRの駅ができ，アクセスが良くなったことで，田んぼが埋め立てられて，住家や店が増えた。塩町は，もともとは沼地で，昔は竹垣内とも呼ばれ，竹藪をつくって水害から守ってきた土地である。平成30年豪雨災害時には，馬洗川と美波羅川の影響で，家屋浸水などの内水被害が発生したことから，その後排水ポンプ1台を設置していただいた。 ・塩町地区には，今回，浸水被害はなかったが，水のはけない状況があることから，排水ポンプの増設をお願いする。また，今回の災害に関する現地確認をしていただき，三次市内でも土砂崩れが多発している地区であることを認識していただいていると思う。 ・（市の説明を受けて）排水ポンプの配置は未定ということか。また，ほかの方法についても検討されているということであるが，いつ頃までにどのようにするのか教えてほしい。予算が確定しなくても示すことはできるのではないか。 ・今年は，消防団が仮設ポンプを借りて稼働した。仮設ポンプを通すために，鉄板を敷いているが，側溝を掘るなど，ほかの方法があるのではないか。	・危機管理課では，排水路は拡張したが，それに見合った排水能力がないという趣旨の要望書を受けている。 ・市内で内水被害を受けやすい地区12か所を選択して，主たる原因とその対策について調査している。塩町地区も調査対象であり，対策を講じていきたいと考えているが，大きな排水機場を全地域に設けることは難しい。既存の排水ポンプの能力向上や貯留施設の増加など，流域治水という考え方を踏まえながら，総合的に検討している。しかし，仮設排水ポンプの設置については，従事者の確保が厳しいことから，ほかの手法を検討している。 ・平成30年豪雨災害を受けて，三次市単独で，排水ポンプ車1台を整備し，令和2年度から，排水ポンプ車を運用し，効果が出ている。また，排水ポンプ車2台を所有する国土交通省と連携し，被害を最小化するような取組を行っている。さらに，広島県は，県南部については排水ポンプ車を配備し，県北部には配備していない状況であることから，局地的な豪雨によって被害が生じないように，排水ポンプ車の配備を県に対して要請している。機動的な運用により，内水被害の軽減につなげたい。 ・塩町中学校の上にある，使用していないため池などを，一時的に雨水を貯めるために活用するように検討している。今後，具体的な取組の方向性が明確になれば，共有をさせてもらう。 ・塩町地区の内水対策について全体的なプラン（メニュー）をつくり，自治連合会に相談させてもらう。排水ポンプ車を運用するなど，予算を使わずにできることは確実に行うとともに，排水ポンプ以外にも，内水被害を軽減させる取組について考えている。具体的な内水対策が決まるまでは，既存の施設等を最大限活用する。 ・ポンプを道路の下に通せるように工事している箇所もある。
塩町中学校への避難	・平成30年豪雨災害で，駐車していた乗用車に被害が出たことから，今回の大雨では，塩町中学校に車を移動された方がいる。 ・今回，塩町中学校には最大25名ほど避難された。塩町中学校は，高台にあり，水害と縁がないと思っていたが，塩町中学校によれば，塩町中学校の裏に小さいため池があり，体育館と教室の1階部分は浸水の可能性がある。平成30年豪雨では，そこから水があふれて1階の教室が浸かった。	市としても，塩町中学校裏のため池を確認し，越水によって1階部分が浸かったという危険性を認識している。
避難情報の周知	・災害では逃げることが重要である一方，警報の発令については見極めが難しい。行政の便宜上，避難情報を出しているのではないかと考える人もいるので，住民に理解されなければならない。 ・今後は，すぐに警報を出すのではなく，根拠のある警報を出してほしい。警報の根拠を示せば，住民も避難をすると思う。	・今年は，天候不順であり，断続的な大雨や夜中にかけて台風が来ることが多かった。市では，気象台（広島市）や県の予想，あるいは各関係機関との連携から，警戒レベル3を発令したり，自主的な避難を促した。自主防災組織の皆さんにもご心配をいただいた。 ・住民の皆さんに「またか」と思われないような情報の出し方が望ましいということは課題として認識している。流域のエリアごとに情報提供ができればいいが，気象台においてもエリアごとの天気予報や情報提供をしてない。気象台では，土壌にどの程度の水が溜まっているのかという土壌雨量指数を判断材料の一つとして，警報を出している。雨が降っていないから大丈夫というわけではなく，雨の影響で土壌が緩くなることで，土砂災害の危険性も高まっていることなどについても啓発をしていきたい。情報の出し方については，工夫の余地があると考えている。 ・気象台や県からの情報に基づいて，どのエリアで警報や注意報を出すのかが決まる。このような雨量で警報を出すのかと思うこともあるかもしれないが，今回，広島市内の土砂災害警戒区域では，早めの警報によって救われた命もある。ある程度の危険があれば，行政の使命として，情報を出さなければならない。その情報をどこまで細分化できるかは今後の課題である。
防災意識の向上	避難しないのは，他人事だと思っているからであり，行政は，地域の皆さんに対して，自己責任，自分事であることを周知してほしい。	行政としては，基本的に，自分たちの命をどうやって守るのかということについて発信をしている。行政が，地域の皆さんの命を全て守ることは困難であるので，継続的に，自分の命を守るためにどうするのかという防災意識を高める方法を，地域の人と意見交換をしながら進めていきたい。

令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：　11月15日（月）
会　場：　田幸コミュニティセンター

2．持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
まちづくりビジョンの改定と人口動態	・27年前，市と農協が協力して，公民館を建てた。また，平成17年の合併時から，自治連合会が指定管理を受けて，施設管理と地域活動を行ってきた。現在，田幸地区のまちづくりビジョンの改定に取りかかるとともに，活動補助金を活用して，田幸地区の地域づくり，まちづくりをしているが，市として，田幸地区にどのような課題をもち，どのようなことを期待しているのか聞きたい。 ・塩町地区にも，30～40代の若い世代が5軒ぐらい定住された。一方で，自治会に入ってもらえないこともあり，コミュニケーションの難しさなどが塩町地区の課題となっている。 ・社会増ということは嬉しい。	・各自治連合会は，どうやって自分たちの地域の特色をつくり，まちづくりを行っていくのか，その指針となる「まちづくりビジョン」の改定に悩まれている。三次市は，藤山浩氏（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所　所長）と，19自治連合会ごとに分析を行い，その特徴を生かした地域づくりは何かということについて検証しているので，参考にしていただきたい。 ・藤山所長は，19自治連合会の地域に実際に入り，地域の強みや弱み，どのような団体が関わってまちづくりが行われているのかということについて，自治連合会の役員の方々と話をされた。田幸地区は，農業が盛んな地域であることが特色であると分析をされている。また，定住に関しては，若い人が地域外から移住して，カフェを開業していることなどを分析されている。 ・人口動態では，これまで社会減であったが，昨年度，社会増となっており，子育て世代，子連れ世帯の流入が目立ってきている一面もあると分析をされている。定住対策については，すぐに効果が見えるものではないが，今まで積み重ねてこられた取組の成果が出てきているのではないか。
まちづくりを進めるために	・理想的なまちづくりをこれから進めていきたいと思うが，市長はどのように考えているか。 ・「住んでよかった」ということが大切である。市長の考えに同意する。	まちづくりとは，地域の人がどれだけ幸せに暮らせるかということではないか。それぞれの幸せ度について価値観が違うことを前提にすれば，田幸地区では，農地や人のつながりなどの環境が宝，資源であると思っている。そのため，地域が社会増となっているのではないか。特に，上井田地区や下井田地区では，昔から果樹園によって生計を立てられ，後継者もいるなど，若い皆さんが一緒になって頑張っておられる。また，牛の数を増やして挑戦している人もいる。地域づくりは，それぞれの地域によって全く異なっていると考えている。まちづくりの定義としては，道路をつくること，学校をつくること，農業をすること，医療や教育をすることなどであると思うが，今，意見交換をさせていただいている「まちづくり」とは，地域づくりをどうしなければならないかということであると認識している。一緒になってまちづくりを進めていきたい。
保育所について	・三次市街地は若い人や子どもが多いが，周辺部では子どもが減り，高齢者が増えている。今後，地域づくりをするためには，若い世代が入ってきてもらわないとできない。そこで，昨年から，実行委員会形式で「梺（ふもと）ぐらしマーケット」を開催し，若い人を呼び込み，田幸地区の良さを知ってもらえるようにしている。保育所については，3歳未満児保育をしてもらい，保護者は感謝している。しかし，塩町地区の中には，田幸保育所ではなく，0歳～1歳児保育をしている神杉保育所などに通っている人もいる。また，3歳未満児保育について，18時までを18時30分までにしてもらい大変喜んでいるが，土曜日は半日しか預けられないことから，土曜日でも一日預けることができる三次市街地の保育所を選ばれることもある。保育所については，子どもの数が少ないから職員の配置も考慮されているとは思うが，一律の運営をしてもらいたい。 ・塩町地区から田幸保育所に入所しないのは，三次青陵高校前の道路問題が理由であると思う。塩町駅からトンネルを掘るなど，道路を整備してほしい。	・「梺（ふもと）ぐらしマーケット」などのように，そこにしかない価値や，「どういうものに人が集まり，興味を示すのか」については多様化している。特に，コロナ禍により，人々の価値観や日常生活は見直されつつあると思う。「ここで住むことの楽しさ」，「ここで住むことの幸せ」や「ここで色々な催しがあることの独自性」について，これからも自信をもって，色々な活動にチャレンジしてもらいたい。 ・この地域に住まわれていても，就業などの家庭の都合や両親の思いから保育所を選ばれるので，行政が決めることは難しい。今後も，田幸地区をどのように盛り上げていくのか，一緒に汗をかいていきたいと思っており，地域振興部，危機管理監や子育て支援部などにいつでも相談してほしい。
医療の充実について	・三次市では，小児科が減ってきており，若い保護者は不安に思われているので，小児科の医師を呼ぶなどの取組をしてほしい。地域としても，若い人が田幸地区に興味を持つような取組をしているが，保育所や小学校などを条件として言われることもあるので，行政と自治会と地域で，色々と考えていきたい。 ・市立三次中央病院における産科や小児科の状況はどうか。	・小児科に限らず，三次市にある約40の医療機関では，医師の高齢化が進んでいることから，危機感をもっている。そのため，市としてできる対応として，小児科の開業に対する助成金を創設している。民間の開業医に関しては，情報収集しているが，まだ具体的な開業にはいたっていない。引き続き，開業しようとする医師がいるのか調査をしていく。市立三次中央病院とは，問題として共有している。皆さんに安心してもらう環境をつくるために，医療は重要であり，引き続き取り組んでいく。 ・現在，民間ではすざわ小児科がある。また，市立三次中央病院はパンクする状況ではない。現在，「＃７１１９」専門ダイヤルのように，病院に行くまでの相談体制も充実しつつあり，子育て支援に結びつく窓口も設置している。